

P R E S E N T A T I O N

ソフトウェア業から 農業事業への挑戦

株式会社 みるいファーム設立

平成22年4月2日

新しい事業の創出の必要性

- ▶ 建設システムは創業 21 年
- ▶ 主業務：建設土木施工管理のためのパッケージソフトウェア開発・販売
- ▶ ユーザー数：全国建設土木業 2万5000社
(業界シェアNo. 1)
- ▶ 社員数：190名
- ▶ 売上高：平成21年度 24 億 (見込)
平成20年度 21 億
平成19年度 22 億
平成18年度 24 億



事業背景と目的

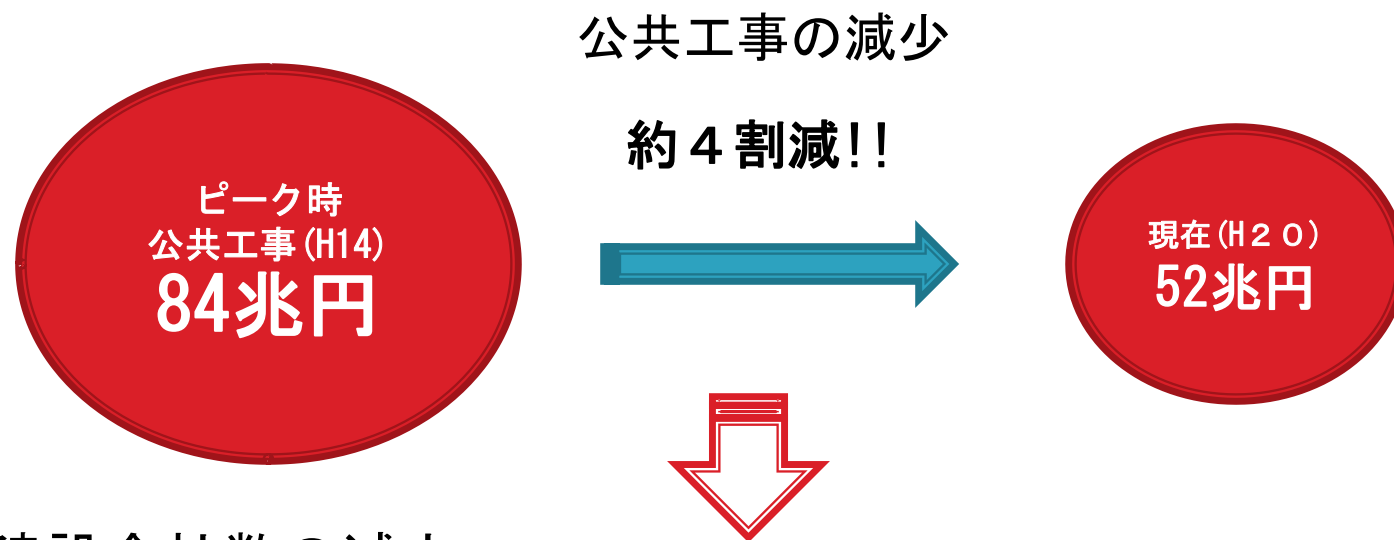
1. 新しい事業の創出の必要性がある
2. 日本の農業が衰退し、企業参入が求められている
3. 社員の健康づくり、将来の受け皿づくり

SWOT分析

	自社の強み	自社の弱み
内部環境	堆肥・育土技術を学び、有機栽培を実践した経験がある 先進農業者のバックアップがある 建設システムのバックアップがある(IT技術、資金援助) 親会社に社員が約200名いるので、社員への販売ができる 首都圏に近い 富士山の麓という良いイメージの土地でできる 全国に営業所があり、400社以上の販売店がある 全国に25,000社のユーザーがいる 建設システムに直販営業力がある 売れる仕組み作りのノウハウがある 人材育成の仕組みがある	栽培技術がほとんど無い 地域農業者とのつながりが弱い 販路が確定していない 研修生を受け入れる体制が整っていない。 農業機械が何も使えない 堆肥舎がない 現場従業員がまだ一人もない 本業と兼務のため、集中して事業運営ができていない 農地がない
	機 会	脅 威
外部環境	遊休農地が増加している。 農業の担い手不足 国内自給率が低下しており、農業への関心が高まっている 企業参入が求められている 食の安全性が求められている。 環境問題が騒がれている。(フードマイレージ、水問題) 補助金が出る仕組みがある 農業をやりたい若者が増加している。 飲食店からの需要が増加している。 おいしいモノが求められている。	公共事業が削減されているため、建設業界自体が縮小する 海外から安い野菜が輸入されてくる。 農薬・化学肥料を使用した野菜が多い 料理をしない家庭が増えている。 子供の野菜離れ 収量・質などが天気に左右され、収入が安定しない 農業を始めるには資金がかかり過ぎる(農機械、施設が高い) 企業参入障壁が高すぎる 簡単に農地が借りられない 農地が集積していない(とびとび) 平地が少なく斜面の農地が多い(富士宮) 地球温暖化が進行して栽培環境が変化する 農業の担い手不足

新しい事業の創出の必要性

☆ 建設システムは創業以来18年、ソフトウェアを建設業界に提供
建設業界が公共工事の削減に伴い縮小



建設会社数の減少

60万社（ピーク時）→ 51万社（現在）9万社減少

これからも更なる減少が予想される今

新しい事業の創出の必要性がある

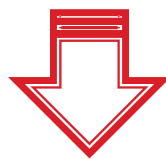
現在、農業事業への企業参入の道が開かれている

- ▶ 日本政府の政策目標、農業参入法人数を平成22年までに500法人に

(281法人 (H20) → 500法人 (H22))

(出典：「(社)日本アグリビジネスセンター発行 特定法人貸付事業のご案内」より)

- 農業参入促進のための相談活動など総合的な支援、農地利用の調整、農地貸付の支援（拡充）、生産技術の支援、施設整備等の支援、親会社の出資制限の緩和（比率や出資条件）、農地の集積利用の促進 等



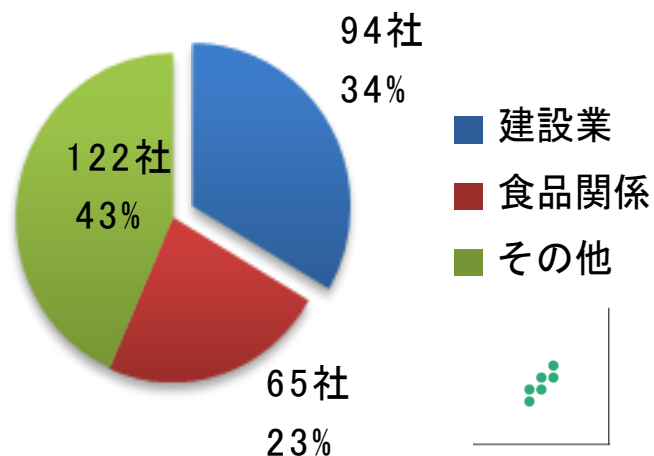
このチャンスを活かしたい

建設業者に対する農業事業のコンサルティングの道も

- ▶ 建設業の現状から将来、農業参入支援サービスの可能性がある
- ▶ 公共工事の減少から、建設業からの農業参入が最も多い(34%)
- ▶ 農業参入している建設業でうまくいっているばかりではない。そこで農業経営ノウハウを蓄積し、そこを狙って支援していく

他業種からの農業参入状況

281社(H20.3現在)



農業参入への
支援サービス
展開

☆先進農業家との交流があり、 農業事業への支援・指導を受ける体制ができている

▶ 農業事業を成功させている先進農家・農業生産法人

- 農業技術の匠として農林水産省に表彰され（全国28名）、農業技術指導も行う
三重県 橋本 力男氏



- 現在、年間売上7000万円、利益率16%を達成し更なる成長を目指している
山梨県 株式会社サラダボウル 田中 進社長

農業コンサルタント指導をうける



- 農業の一大テーマパーク（年間来場者数50万人）、レストラン経営でも成功している
三重県 農業組合法人伊賀の里モクモク手作りファーム
- たった一人の主婦が有機栽培にこだわり立ち上げた
滋賀県 有限会社 ブルーベリーフィールズ紀伊國屋
岩田 康子社長
- 静岡大学 農業ビジネス企業人育成講座 諸先生方

日本の農業が衰退し、企業参入が求められている

日本の農業が衰退している（食糧自給率39%）

○ 日本の農業の現状

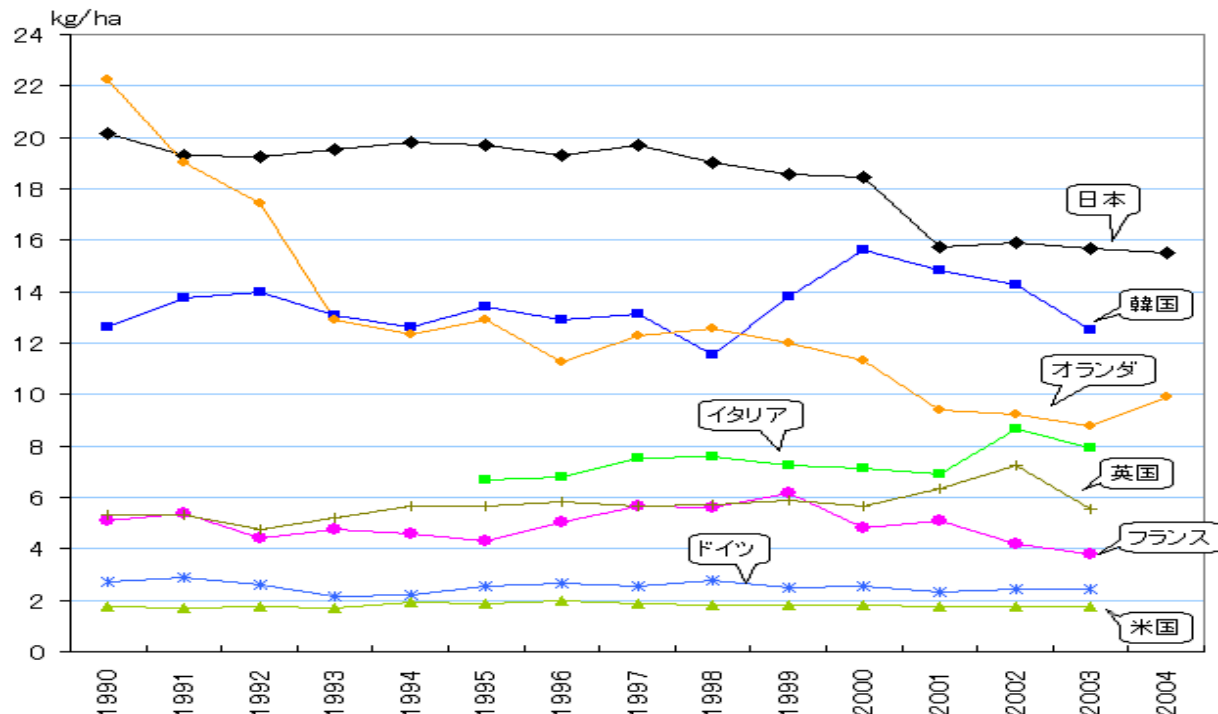
日本の自給率	39%（先進7カ国の中で最低）
総農家戸数	252万戸 （ピーク時：618万戸－366万戸）
農業就業人口	312万人（平成2年から－170万人） うち65歳以上 180万人（全体の60%） 10年後には180万人が減少 危機的状況
新規就農者	平成19年で8万人 うち39歳以下 1.2万人 就農人口の減少に歯止めがかからない
耕作面積	465万ha （ピーク時：609万ha－144万ha）
耕作放棄地	39万ha（埼玉県と同じ面積） （平成7年は24万ha 14年間で15万ha増）

- 日本の農業が衰退しているからこそ、企業参入が求められている
- そこに大きなチャンスがある、と考える

日本の農産物は、農薬・化学肥料にまみれている

- ▶ 日本の農業の96%は化学肥料、農薬を使用する慣行農業
 - EUでは禁止されている農薬が国内で使われている
 - 農薬大国という汚名（下表参照）

主要国の農薬使用量推移



(注) 耕地面積(Arable and permanent crop area) 当たりの有効成分換算農薬使用量(Total Pesticide use(active ingredients))。農薬は林野・公園・ゴルフ場など非農業用にも使用(米国では25%)。
(資料) OECD database: Environmental Performance of Agriculture in OECD countries since 1990

レイチェル・カーソンの「沈黙の春」ミツバチが激減「実りなき秋」が現実のものとなった

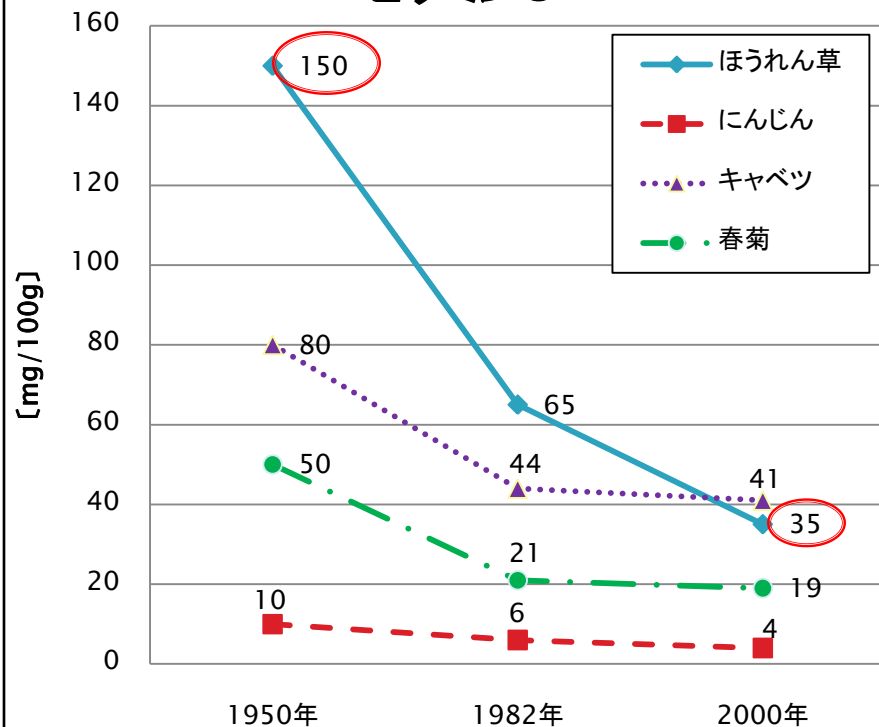
近年の野菜の栄養価が急激に減少している



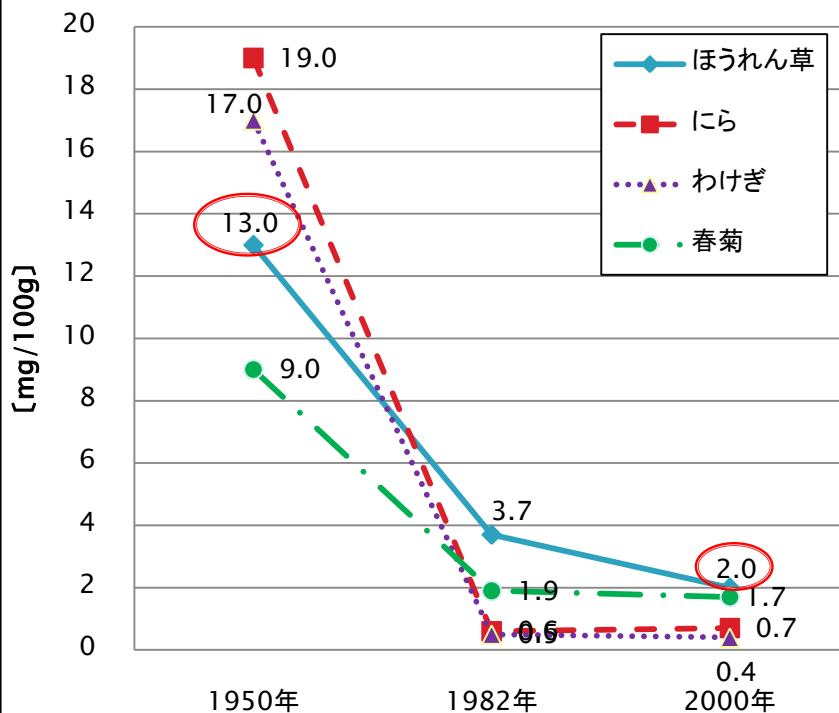
ほうれん草ではこの50年で、ビタミンCが73%、鉄分は85%も減少している！！（にら、わけぎ、春菊も同様）

このような野菜を食べる子供たちの健康と将来が心配

ビタミンC



鉄分



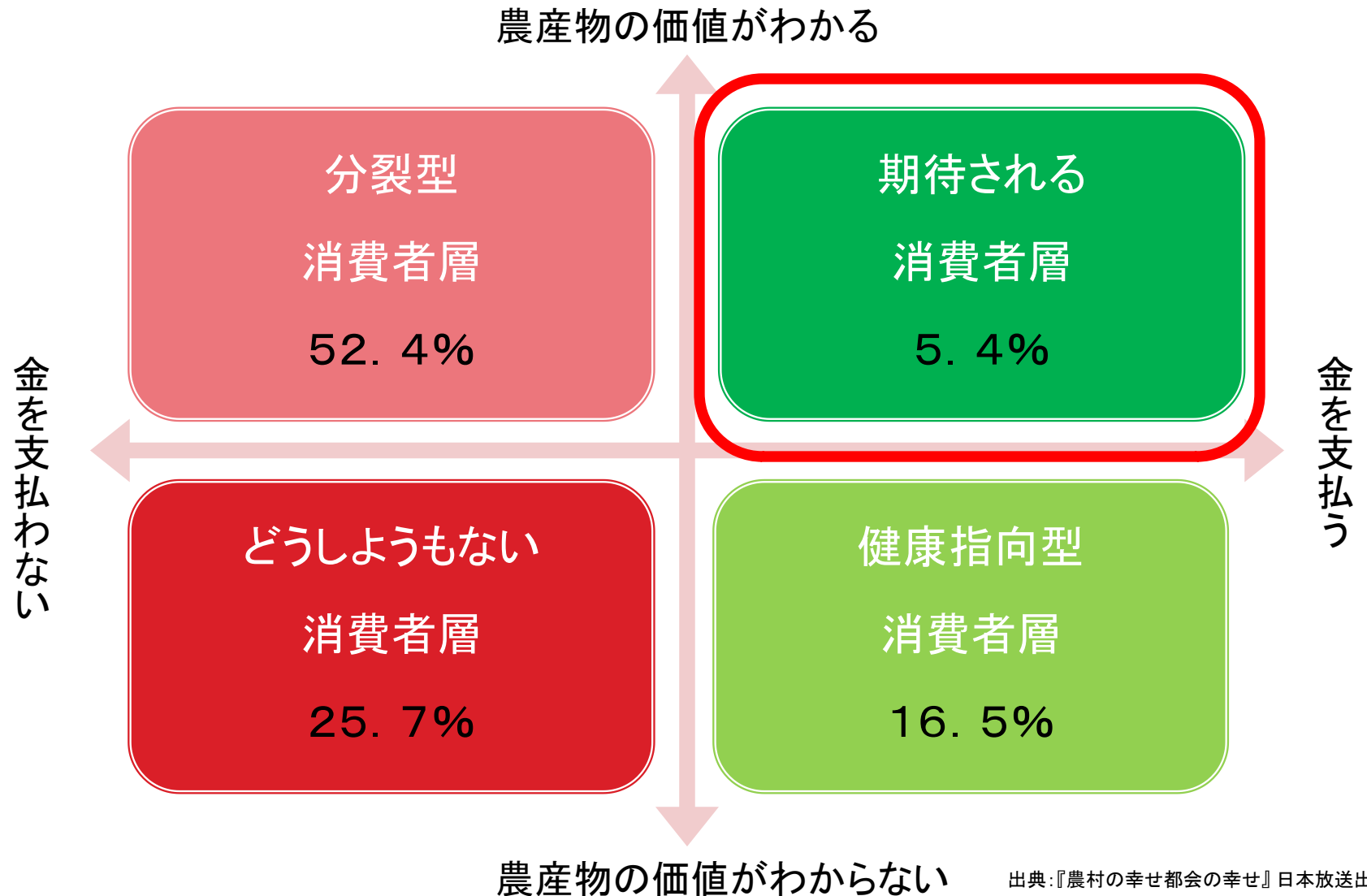
出典:新留勝行 著「野菜が壊れる」

安心安全な野菜の提供と社員の活力づくり

- ▶ 日本人に安心・安全でおいしい野菜を提供する！
- ▶ 社員と社員の子供たちの未来に安全を、日本の将来を支える！！
- ▶ 社員に活力を与える！！
- ▶ 社員の高齢化によるＩＴ職という将来性の不安解消



農業ビジネス➤消費者の分類とターゲティング



出典:『農村の幸せ都会の幸せ』日本放送出版協会

独自の販路を確立する

相手のニーズに合った栽培体系を構築し、
有利な直接契約取引を行う

有機野菜は、市場
の「0. 17%」

安心
・安全
な野菜
↓

市場が空いている

環境保全野菜は、「3%」

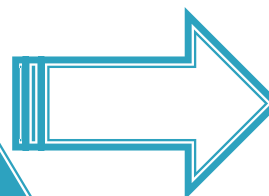


取引先ニーズ

慣行野菜(96%)

共選出荷・同一規格
=みんな同じ作物
↓

市場が飽和状態



特別栽培から
スタートする

今までの
商品群

期待される消費者層を対象

▶ 安心・安全な野菜

- 安心、安全をPRする、3ナイ農業
 - ①化学的な土壌消毒はしナイ
 - ②除草剤は使わナイ
 - ③危険な農薬は使わナイ
(ポジティブリスト厳守)
- みるいファーム独自の商品安全管理基準 (MRUIX) を設ける

前提として安心・安全な野菜を作り続けることが大事！！
安心・安全な野菜は消費者から求められている！！
安心・安全な野菜は必ず売れる！！

農業を実施する地域環境

▶ 農地を構える静岡県富士宮市山宮について

- 急速な高齢化
- 今、この地区の後継者は1名のみ
- 10年以内に大半が担い手不足
- 市として「フードバレー構想」を提唱



- ## ▶ 富士山の麓という素晴らしい環境を活かした新しい農業ビジネスを展開
- ## ▶ この地に適した野菜作り

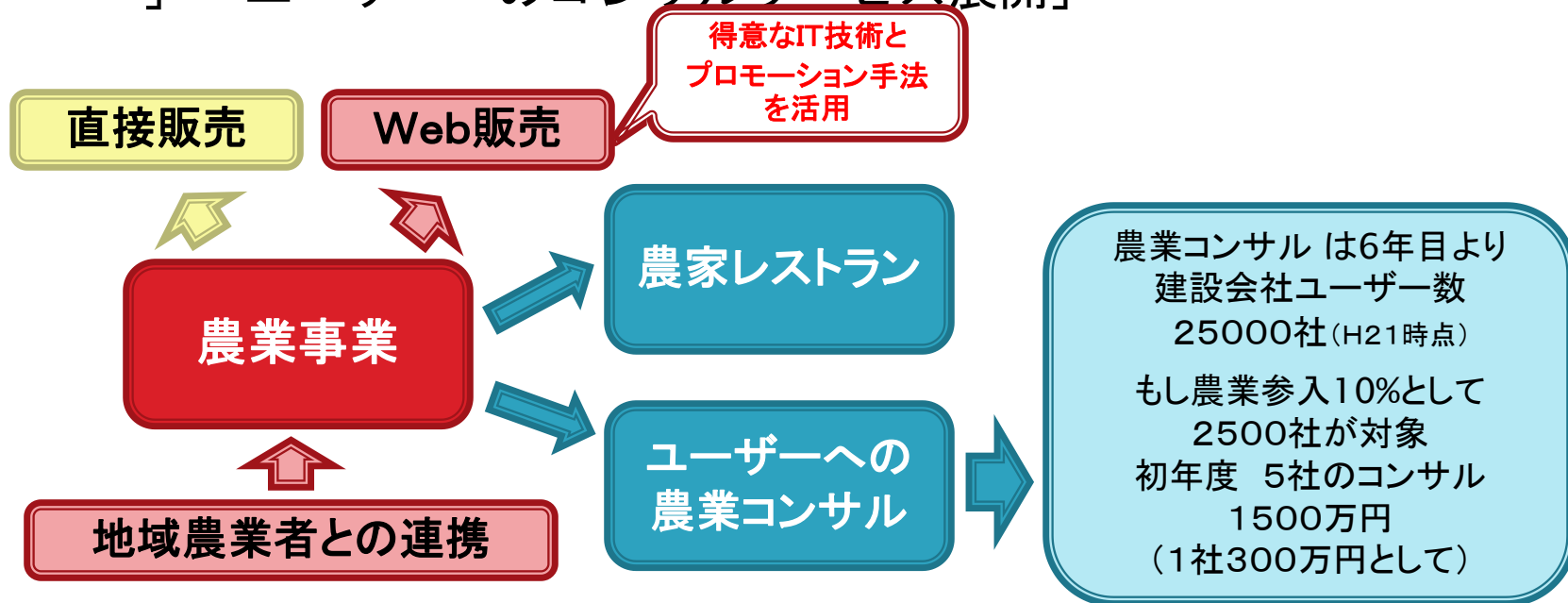


農業事業の進め方

★農業事業戦略

▶ 将来の展望

- 先ずは農業生産を確立、利益を確保しその上で「農家レストラン」「ユーザーへのコンサルサービス展開」



○ その他の発展性

- ・ 福祉農場・観光農業・体験農場・教育農場
- ・ 農業研究・施設園芸・IT農業・農業関連ソフト開発

事業方針（理念）

- ▶ **地域**の農業者たちと**連携**し**地域**の農業を活性化する
- ▶ **農業**は**生命産業**である。生命力あるおいしい野菜を提供し、命を次の世代へとつなぐ
- ▶ 農業生産方式は**有機栽培**、**環境保全型**を目指し、特別栽培からスタート
- ▶ 良い野菜は土づくりから **育土、堆肥技術**を磨き続ける
- ▶ **農業**は**脳業**である。露地栽培、施設栽培にも **I T**活用を心がけ新たな栽培手法の創造に取り組む
- ▶ **独自の販路**を確立する
- ▶ 農業をベースに日本の**国造り**に貢献する
- ▶ 若者の農業参入を誘う。マニュアル化の推進。
- ▶ 太陽の下で常に**明るく笑顔**で元気よく

どのような農業を展開するのか

▶ 《経営概要》

- 農業生産法人 株式会社みるいファーム
- 経営者 : 取締役会長 栗田富夫
代表取締役 木村 仁
取締役 上原大和
- 規 模 : 70a (初年度)
- 従業員数 : 3人, 常時雇用2人, 臨時雇用4人
- 資本金 : 550万円(設立時) 認定後 1 0 0 0 万円へ増資
- 運転資金 : 2 0 0 0 万円 (建設システムより借入)



トラクターでロータリー掛け



試験栽培開始（平成21年11月～）



圃場の全景



農業生産・出荷開始



農業の福祉的価値



どのような農業を展開するのか

- ▶ 富士宮市の農地を借入れる
 - 富士山の麓、標高300m～400mの中山間地
 - 初年度：70a
5年後：5.5ha規模まで拡大
 - 安心、安全な3ナイ農業
- ▶ 主要事業（直接販売）
 - 簡易施設栽培
 - 1～2年目：小松菜，ほうれん草，水菜，ジャガイモ、等
 - 3年目以降：上記＋トマト
 - 露地栽培：キャベツ，ブロッコリー，落花生，ジャガイモ
- ▶ Web販売
 - 安心・安全な栽培（3ナイ農業）をしてくれる農家と提携
 - 30品目の取り扱い
 - Web管理をする部門の創設（建設システム）

農作物の販路の開拓

▶ 販売先

- スーパー等への直販
 - ・ しずてつストア
 - ・ 地域商店街小売店、青果市場
- 外食産業への直販
 - ・ 葡萄の丘、太陽のカフェ などの有機野菜を扱うレストラン
- 社員に直接販売
- W e b による販売
W e b 技術は得意分野

▶ アプローチ方法

- 先進農業生産法人の指導・支援により販売可能と見込まれる。
- 生産計画を立てて、継続・安定的に良質なおいしい野菜を提供していくことが絶対条件になる。
- 将来的には直売店やネット販売、会員制販売を行う。

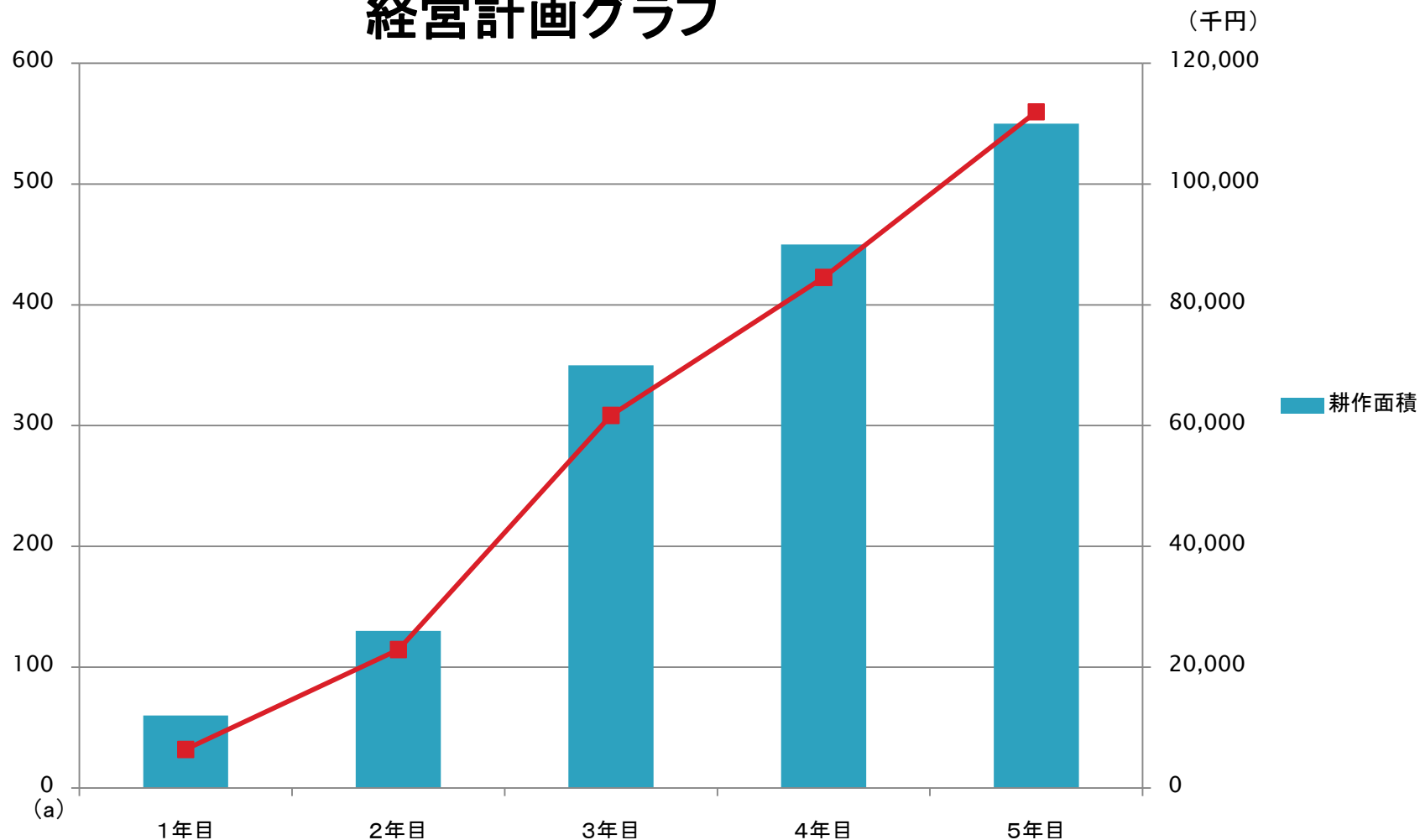
農業事業の進め方

▶ 直販売上（5ヵ年計画）

年数	売上	作付面積
1年目(半年)	638万	60a
2年目	2300万	130a
3年目	6200万	350a
4年目	8450万	450a
5年目	11200万	550a

売上計画

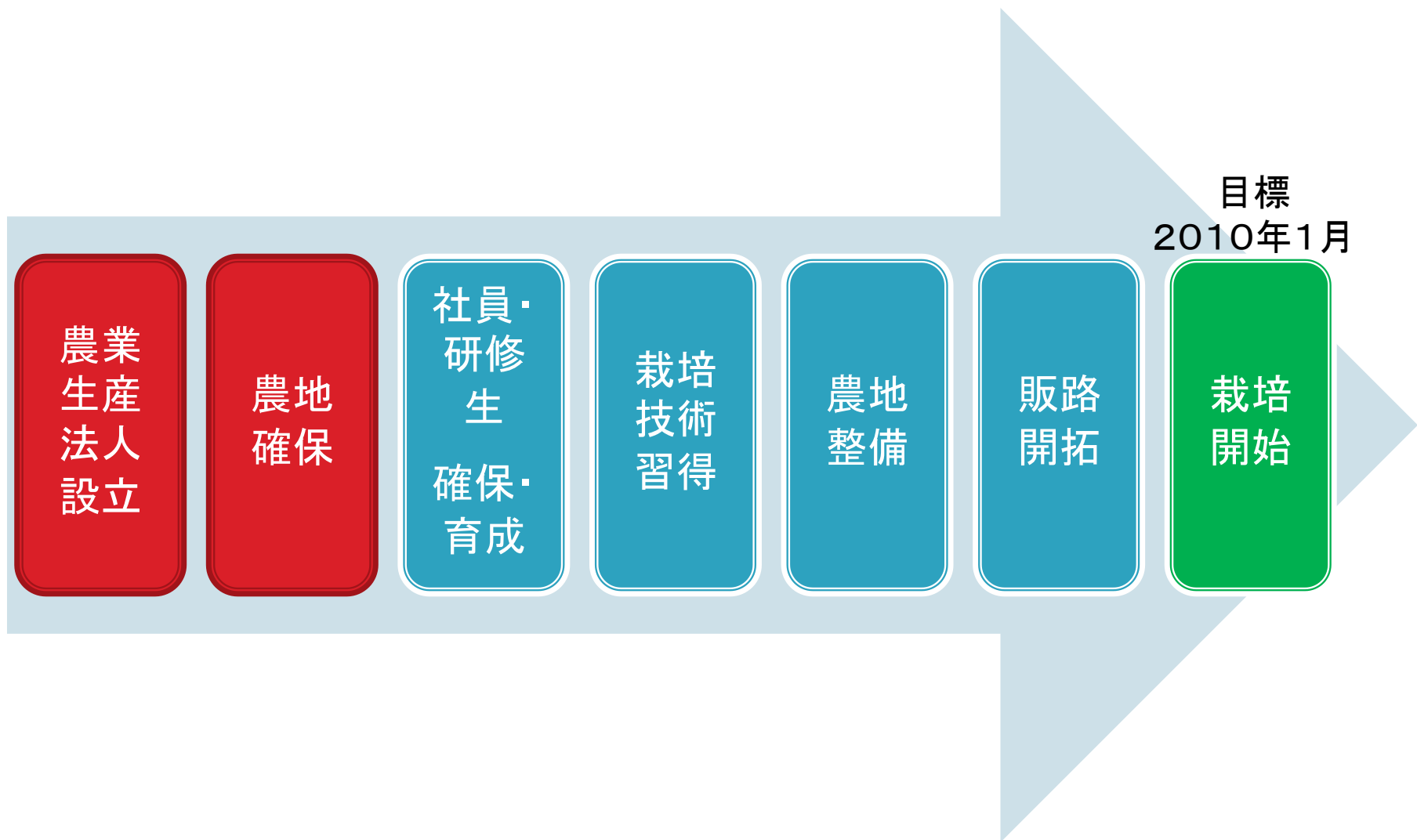
経営計画グラフ



作付計画

栽培作目	作型	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目	
		面積 (a)	売上 (万円)	面積 (a)	売上 (万円)	面積 (a)	売上 (万円)	面積 (a)	売上 (万円)	面積 (a)	売上 (万円)
こまつな	周年 (簡易ハウス)	10	188	20	658	40	1,505	50	1,881	60	2,399
ハウレンソウ	周年 (簡易ハウス)	10	141	20	658	30	1,128	50	1,881	60	2,399
水菜	周年 (簡易ハウス)	10	188	10	329	30	1,128	50	1,881	60	2,399
キャベツ	露地	15	60	40	322	120	967	150	1,209	170	1,456
ブロッコリー	露地	15	60	40	322	120	967	140	1,128	180	1,542
中玉トマト	施設					10	470	10	470	20	999
		60	637	130	2,289	350	6,165	450	8,450	550	11,194

農業事業 立ち上げまでの流れ



設立時（平成21年10月時点）の課題

- | | |
|------------------------|----------|
| ▶ 農業委員会の認定を頂く（農地法第3条） | ・ 完了 |
| ▶ 農地の確保 | ・ 初期目標完了 |
| ▶ 現場事務所の確保 | ・ 完了 |
| ▶ 水源の確保 | ・ 完了 |
| ▶ 車庫、農具、農業資材置き場、倉庫の設営 | ・ 完了 |
| ▶ 農業機器を導入する | ・ 完了 |
| 軽トラック、トラクター、動噴、管理機、草刈機 | |
| ▶ 育苗ハウス、簡易ハウス設営 | ・ 完了 |
| ▶ 宿泊場所の確保 | |
| ▶ 体力をつける | ・ 徐々に進行 |
| ▶ 若くて意欲のある人を採用する | ・ 徐々に進行 |
| ▶ 栽培技術の習得 | ・ 徐々に進行 |
| ▶ 農地整備 | ・ 徐々に進行 |
| ▶ 種苗・堆肥・資材の購入 | ・ 徐々に進行 |
| ▶ HPの作成 | ・ 一応開始 |

どのような農業を展開するのか

▶ 「みるいファーム」のブランド化推進

- 日本一の山、富士山のふもとで展開する農業というイメージを活かす
- おいしい水、綺麗な空気で作った野菜
- 安心、安全をPRする、三ナイ農業
 - ①土壌消毒はしない、②除草剤は使わない、③危険な農薬は使わない（ポジティブリスト厳守）
- 肥料は堆肥を主とする
- 簡易な施設栽培を行いリスク回避

▶ 人材を育成できる農業

- 5年後に従業員5名、研修生8名、パート7名 計20名
- 人材の育成が大きな課題

どのような農業を展開するのか

- ▶ みるいファームで働く人の幸せ
- ▶ みるいファームで作られる野菜を食べる人の幸せ
- ▶ みるいファームで作られる野菜を販売する人の幸せ
- ▶ みるいファームと関わる人々の幸せと繁栄

思いから全ては始まる

農業の未来をひらき、 人と共に繁栄する

みるいファームは富士山の麓で栽培を始めています

えう、ご期待

株式会社みるいファーム

